

コンソーシアム便り

第11号

平成29年7月14日

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司
(千葉県立柏高等学校校長)

平成29年6月6日、千葉工業大学津田沼キャンパスを会場として、平成29年度「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉（以下コンソーシアム）・第1回総会及び第1回ワーキンググループ会議（就職）」を開催しました。

1

平成29年度 第1回総会

(1) 報告事項

- ア 新コーディネーターの紹介
- イ 平成28年度工業高校教員等の研修について
- ウ 平成29年度第1回ワーキンググループ会議について

(2) 議事

- 第1号議案 平成28年度事業報告及び会計収支決算報告について
- 第2号議案 平成29年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について
- 第3号議案 平成29年度会長等の選任について

(3) 協議

- 工業系高等学校ワーキンググループの設置と今後の活動について



【小野会長】

今年度は千葉県の工業系高校がどのような改革を進め、変わっていくのか、千葉県の工業高校生にどのような成長をさせたいのかということにスポットを当て、協議を進め報告したい。

(1) 報告事項

報告—イ 平成28年度工業高校教員等の研修について

【事務局次長】

今回は三井化学株式会社様に御協力いただき、平成29年3月13日(月)の午後に、三井化学株式会社茂原分工場内 三井化学技術研修センターで実施した。県内工業系高校6校の工業科・進路指導部・工業科のクラス担任及び教育委員会職員の計31名が参加し、企業で実施している危険体験を通じた安全教育の施設を見学するとともに、実際に幾つかの体験もさせていただいた。作業の現場体験、危険動作の模擬体験等、大変有意義な体験ができた。

追加報告 鉄鋼新聞に掲載された京葉工業高校の卒業生について

【田中様 新日鐵住金】

これは工業新聞の企画で「働く女性に焦点を当て、頑張っている子」を紹介している。124名の現場で働く女性がいる中で2名にスポットが当たり、1名は2度の出産を経て働く女性、もう1名は、今後が期待できる若手ということで京葉工業高校卒業生の女性を対象となった。この女性は2003年入社で、入社2年目から新日鐵住金グループの「入社して10年未満の社員を対象に、競技をして腕を競い合う」という大会で、先輩と腕を競い合って選ばれた非常にやる気がある社員だ。努力家で職場に順応していることも相乗効果となり、現場では年配の方達からも慕われている。

【加曾利校長 京葉工業】

掲載された生徒は、以前、私が京葉工業高校に勤めていた時代の生徒で、非常に優秀な生徒でした。テストで間違えた際、「なぜこの答えではいけないのか」という質問に始まり、答えを教えたところ、「これはどうでしょうか？このように書けばいいですか？」などととても反応がよく、積極的な印象を受ける生徒でした。本校の卒業生が、新日鐵住金さんととても大事に育てていただいていることに感謝するとともに、この生徒に続く生徒をまた育てていきたいと思っております。

（２）議事

第 1 号議案—平成 28 年度事業報告及び会計収支決算報告について

1 運営委員会・総会

- (1)平成 28 年 6 月 6 日 第 1 回運営委員会・第 1 回総会
- (2)平成 28 年 12 月 22 日 第 2 回運営委員会（電子メールによる開催）
- (3)平成 29 年 2 月 1 日 第 2 回総会

2 事業報告

- (1)ワーキンググループ会議（平成 28 年 10 月 3 日：第 1 回、平成 28 年 10 月 26 日：第 2 回）
- (2)ロボットフォーラム 2016（平成 28 年 7 月～9 月・東葛テクノプラザ）
- (3)高校生理科研究発表会への参加（平成 28 年 9 月 24 日・千葉大学）
- (4)課題研究発表会（平成 29 年 2 月 1 日・県立現代産業科学館）
- (5)コンソーシアム便り（第 7 号～第 10 号）
- (6)企業見学会（平成 29 年 3 月 13 日・三井化学株式会社茂原分工場 三井化学技術研修センター）

（３）協議：「工業系高等学校ワーキンググループの設置と今後の活動について」

【鈴木校長 千葉工業】

10 年前は 10 名程度だった本校の女子生徒も現在は約 60 名で、女子生徒が中心となっている雰囲気だ。女子生徒が増えて活気づいたこともあり、今後、更に女子生徒の採用を視野に入れていただければありがたい。

【小池理事長 千工会】

財団千工会は、「ものづくり教育の応援団」として各工業高校を支援し、2 年に 1 回各学校を巡っている。市川工業高校に行ったとき、インテリア科には女子が多くとても元気で、女子が積極的で男子を引っ張って行く姿をよく目にした。

千葉県の工業高校の生徒は、他県（長野や秋田、青森など）と比べると頑張りが少し足りない気がする。昔から「千葉県人はおっとりしていて非常に性格がいい」と褒められる反面、「頑張りが足りないこともある」と言われているので、そのあたりを念頭に置いてこれから御指導いただければと思う。女子生徒をもっと増やし、活力ある学園にすることも課題の 1 つと思う。

【千濱教頭 市川工業】

本校の課題研究の取組として、鎌ヶ谷市の商工会議所とともに「高校生夢マルシェ」という新しいプログラムを昨年より実施している。企業の協力によってデザインしたものを商品化し、販売までを考えるという企画だ。企業の負担が非常に大きく、就業中に協力いただくのは難しいので土日に予定を組んでいただき、本年度は学校に出向いていただいた。デザイン面にはアドバイスをいただき、作品は販売までを行い、最後は考察という形態をとったが、商工会議所や企業から援助をいただいた。

【工藤教授 千葉大学】

課題研究に関しては学生向けの指導ハンドブックと教員向けのハンドブックを出しているが、無料でダウンロードできるので積極的に利用していただければと思う。

大学に入ったら 4 年間でまとめるのが卒業研究だが、千葉大学の学生を派遣して研究のまとめ方の話などをさせるというのも、参考になるかもしれない。

【小野会長】

本日いただいた貴重な意見を基に、8 月のワーキンググループ会議で協議し、秋の進学と就職のワーキンググループ会議で進めるように準備していきたい。

平成 28 年 10 月 26 日に企業関係者・工業系高校校長等によるワーキンググループ会議を開催し意見交換を行ったが、今回のワーキンググループ会議は、その続きとして開催したもので、会議の概要は、次のとおりです。

- 1 日 時 平成 29 年 6 月 6 日（火）14 時～15 時 15 分
- 2 会 場 千葉工業大学津田沼キャンパス
- 3 出席者 企業関係者（4 名）、工業系高校関係者（9 名）、
行政関係者（3 名）
- 4 協議題 「工業高校生の育成について」



【小野会長】

これまでに各方面からいただいた意見を基に、より踏み込んだ協議ということで、昨年の秋にワーキンググループ会議を立ち上げた。本日は企業側からさらに進化した具体的な話や意見をいただき、高校側からは、このような改革に着手したいとか進路指導の現状や課題などの話をいただければと思う。

【企業】

- 今年の例だが、コミュニケーション能力を勘違いしている生徒が多い。おしゃべりな生徒が、コミュニケーション能力が高いと思われるようだが、話すのを好きな子がコミュニケーション能力が高いということではない。やはり聞く力・伝える力が常に大切だと思う。何を話したいのか、何を伝えたいのかだけでは、コミュニケーションと少し違うと最近感じている。
- 新人研修も含めて、新人の面倒を見るが、やはりコミュニケーション力が不足している。中小メーカーの場合、機械音がうるさい中で仕事をするのは非常に危険だ。実習中に、機械の前で無言で手を上げて助けを求めた新人もいた。現場に入って、大きい声で挨拶する子が「今日も来てるな」と周りの先輩方は認知し、「安全確認よし」が聞こえると「今あの作業をしているな」と分かる。大きな声と一緒に働く仲間の安全を守り、自分の身を守る術にもなっていくが、声が小さいと何か起きた時に誰も助けに来てくれない。生死に関わることになってくるので、特に製造メーカーに就職する生徒には、その辺のポイントを学校で教えていただけたら良いと思う。
- 自分に対する納得感は、自立した社会人としては必要なことだと思う。ある種、職人的な考え方と思う。企業に入って一番困ることは、自己満足になってしまうことだ。マニュアルやチームワークで働く時、阻害にならないか心配する。自立して仕事を行う心構えのある社員は、企業にとって非常に有り難い存在だ。
- 従業員は可愛がられることがすごく大事だと思う。可愛がられれば先輩から話しかけられる。先輩が話しかければ、その子も話しかけるといふスパイラルみたいな感じで良い関係が続くのではないか。例えば、面接の時に一生懸命話すとか、研修中小さなことでも一生懸命取り組める子が可愛がられ、それがコミュニケーションを取れる子と感じている。それを引き出そうと会社側も取り組んでいるが、中には壁をつくってしまう子もいる。100 人いれば 100 人いろいろな性格があるが、可愛がられる子を採用して育てていきたい。
- コミュニケーションに関しては、今の子は声が小さい。内容は結構良い話をしているが、伝わってこない。当社では、新入社員、特に若い社員には朝礼の時にその日にやる自分の工程を整理させて、それを全員の前で発表させる。大勢の前で話をすると小さい声では伝わらない。それに、声を出してその工程を話すと責任感も、やる気も出てくる。

【高校】

- 女性が多いインテリア科に求めるものは、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力、チームワーク力だと思う。私が行っているコミュニケーションスキルを高める練習は、1対1で相手が質問したらそれに答え、答えた人が今度は質問するという繰り返した。コミュニケーション能力は、相手の立場を考えて自分の言葉で発し、姿勢や態度も大事だと思う。
チームワーク力だが、一つ目は、チームを意識させながら一人一人がリーダーシップを取り、チームで目標を共有させることだ。二つ目は、自らがリーダーシップを率先するように指導していく。三つ目が一番大事なことで、仲間を支援することだ。そうすることによって、徐々にだがチームワークを意識し、人前で話すことができるようになり、プレゼンテーション能力が上がる。
- 国語の時間にテーマを与えてスピーチをさせる授業を行っている。就職対策の一つとして、みんなの前に出て話す練習を取り入れ、課題研究発表の練習にもなっている。相手に伝える力、説明力を上げることに役立っている。
- 本校に赴任してびっくりしたのは、廊下で教員と生徒が会うと必ず生徒が挨拶してくれることである。挨拶がしっかりできる生徒は多い。しかし、挨拶ができるから、面接でも話せるかという、必ずしもそうではない。面接になると急に話せなくなる生徒がかなりいる。そのため、本校では面接練習をかなり行う。そうしないと内定がもらえない。去年は話せない生徒が2人いて、4社目でやっと内定をいただけた。挨拶はコミュニケーションの基本であるが、さらに、質問を理解し、質問に対し的確に答えられるように、授業をはじめとした学校生活のさまざまな場面で指導していく必要があると考えている。
- このワーキンググループに出て、コミュニケーションを非常に意識するようになった。国語の授業では、ただ発表するのではなく、ワークシートを使って意見とその理由を論理的に説明させている。グループの中で話し合いをさせると話せない生徒も慣れていく。あと、身だしなみ・服装・礼儀作法も全てコミュニケーション能力だということで、学校全体で日常的に意識して指導するようになった。また、生徒が何かを造って教員のところに「これでいいですか」と持ってくると、「自分で納得していますか、自分で納得できるものを持ってきなさい。」と指導する。自分の造るものに責任を持つ、これがものづくりの姿勢であり、職業観、勤労観だと思う。
- 前任校の農業高校は、子供達が卵を近所の家に売りに歩く。売りに行った先で、近所の人とコミュニケーションがとれないと絶対に卵は売れない。子供達にコミュニケーション能力を自然に身に付けさせるのに非常にいいことだと思う。
- 農業の販売体験では、生徒が自分の学校で丹精込めて作ったことを、自信を持って紹介している。これは本当にためになる実習授業だと思う。
本校では、昨年度から朝読書を始めた。高校生は、自分の思いを相手に伝えることが苦手で、自分勝手な言い分を言うが、自分が触れたことのない世界を、読書を通して知ることによって想像力が豊かになり、1時間目の授業も落ち着いて入るようになった。図書室の利用も昨年度に比べて延べ1,000名増え、学び直しの朝学習も工業の職員を中心に展開し、かなり多くの生徒が自主的に参加している。また、学年間でもしっかり挨拶をさせようという取組をしている。

【工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局】

事務局長（千葉工業高校教頭）田口 英彦

TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524